

平成 18 年度 事業 報告

1 事業の成果



昨年度に引き続きイラン毒ガス被害者支援のため 6 月 24 日～7 月 6 日まで、会員や医師ら 16 名がイランを訪問。イラン北西部のイラク国境に近いマリヴァンやガラジ村などを訪れ、被害者の聞き取り調査を行った。ケルマンシャーでは平和公園の除幕式に参加した。

首都テヘランでは医学国際会議が開かれ、日本の毒ガス被害者を 40 年余り診療する呉共済病院忠海分院行武正刀元院長が、旧日本軍が大久野島で毒ガスを製造した歴史や戦後の元工員らの症例を報告。続いて、広島大学大学院医歯

薬学総合研究科井内康輝教授が同医学部の研究で判明した大久野島毒ガス被害者の高い肺がん発生率やマスタードガスによる遺伝子障害を発表した。さらに医学交流の話し合いも行われた。一行はテヘラン市内の被害者らが入院する病院を訪問し、毒ガス被害者を見舞った。

一方、イランの毒ガス被害者らが 8 月 6 日、第 61 回平和記念式典に参加するため、当会が受け入れ先となった。イラン化学兵器被害者支援協会の広島訪問は 3 年連続 4 回目。毒ガス被害者 6 名とイラン人医師 1 名、通訳 2 名ら計 11 名が 8 月 4 日から 9 日まで広島に滞在した。滞在期間中、平和記念式典へ出席したほか、戦前日本で毒ガス工場のあった大久野島や広島大学病院の井内教授らを訪問。被爆者との対談や広島経済大学生との交流なども行った。

また、毎年 12 月に当会が主催するジュノー音楽祭を 12 月 7 日に開催した。被爆後の広島に 15 トンの医薬品を届け、医療活動を行ったマルセル・ジュノー博士の功績を世界中の人に知ってもらい、平和教育などに役立ててもらいたいと、アニメーション化を計画。会場で、完成したばかりの予告編を上映した。今後、あらゆる方面の協力を得てアニメーションの完成を目指す。(写真左上＝サルブアバット村訪問、右上＝ササン病院で化学兵器犠牲者を見舞う)



2 特定非営利活動に係る事業

写真	事業内容	実施日時	実施場所
	イラン化学兵器犠牲者慰霊碑建設費寄付、テヘラン市長へ贈呈	H18.6.24	イラン・テヘラン市
	イラン毒ガス被害者聞き取り調査・医学学会参加	H18.6.24-7.6	イラン・テヘラン市他
	第 4 回 イラン毒ガス被害者来広(平和記念式典参加、大久野島訪問他)	H18.8.4.-8.9.	広島市、大久野島他
	ジュノー音楽祭'06	H18.12.7.	エリサ'ハート音大セシリアホール
	パレスチナ医療支援	H19.2.10	パレスチナ・ガザ地区
 ©Moct	ジュノーアニメ予告編制作	H18.4.1-H18.12.6	